



杉並区内に設置された避難誘導案内板
(京王井の頭駅・西田山駅前)

広告付き避難誘導案内板

9月までに約200基整備

杉並区が23区初のPFI方式で

東京都杉並区では、善化している避難誘導案内板をPFI方式（民間資金を活用し社会資本整備）を利用し、改めて初めて整備を行う。新しく設置される案内板の下部には広告スペースが設けられており、この社会資本に充当する民間企業の広告を有料で掲載し、案内板の新設、維持、管理は、その広告料があらゆる区の花を支出することとなる。約200基の案内板が整備される。設備種としてはPFI法人の日本ソフトバンク㈱とスター杉並区が共同で当たり、広告に関しては、電柱広告や交通広告を扱う㈱日本印刷社が担当することとなる。

杉並区が、PFI方式（「野村建設」との連携）で、本道避難案内板の設置契約が締結し、20年間にわたる整備が開始される。案内板の高さは、地上から約2メートル、幅は約1メートルとなる。外装は、管理などの運搬を担う業者のPFI法人ソフトバンク㈱の研究所センター製、板面はアルミ板に熱転写シートを貼って取り付ける。取替は2年間にわたる。また、電柱の電線も布面を張り替える予定。7月1日から各工区に入り、8月中旬に約100基を完成させる。9月には、約200基の設置が完了する。設置場所は、区内の多く集まる駅前や公園、児童公園などである。7月1日から各工区に入り、8月中旬に約100基を完成させる。9月には、約200基の設置が完了する。設置場所は、区内の多く集まる駅前や公園、児童公園などである。

総合報道

発行所
株式会社総合報道
本社 東京都台東区門前2-19-17
電話 (03) 3842-6267
FAX (03) 3842-7530
発行日 9-15-2011

「広域急電法施行令」が公布されたことにより、電力供給の確保が図られる。また、電力供給の確保が図られる。また、電力供給の確保が図られる。

「PFI」は、Private Finance Initiativeの略で、自営企業が公共施設やサービスを運営する仕組みを指す。今回の案内板整備は、PFI方式で実施される。

総合報道 平成 16年 9月 5日 掲載